

温暖化防止ながれやま便り

第52号 2024年6月

NPO 温暖化防止ながれやま
代表 増永 弘
流山市西平井2-16-7
編集 筒井 義憲

地球の明日のため、流山からアクションを！

代表 増永 弘（総会挨拶）



当会は、流山市周辺的环境保全是勿論、千葉県全体から我が国全体の環境保全を目的に、地球温暖化の原因となる温室効果ガス（二酸化炭素、メタンガス等）の発生を極力最小化し、最終的には排出量を実質ゼロになるよう、県や市の温暖化対策実行計画に基づき、市民への啓発活動を続けていきます。更に会員自ら「地球の明日のため、流山からアクションを！」実践していきます。

令和6年度総会内容

令和6年度の総会を4月25日に生涯学習センターにおいて開催し、令和5年度の活動報告、令和6年度の活動計画等が承認されました。

<令和5年度活動内容>

市民環境講座（参加者：222名）

	日程	場所	参加数	内容
第1回	6月17日 (土)	生涯学習センター (多目的ホール) 横田・増永	19組 38名	『太陽のエネルギーを実感しよう!』 親子でミニソーラーカーを作って走らせよう
第2回	8月5日(土)	南流山センター (ホール) 笠原・横田	18組 40名	『LEDランタン工作』 ー太陽光で発電した電気をためて夜間にLED照明に使うー
第3回	10月21日 (土)	南流山センター (ホール) 増永・難波	12名	「ながれやま脱炭素未来ワークショップ」千葉大倉阪先生から講義を受けた後、中学生同士で流山市の2050年の課題解決の方策を話し合った

第4回	2月12日 (月・祝日)	生涯学習センター (多目的ホール) 吉永・筒井	49組 132名	らんま先生の 『環境エコ・パフォーマンスショー』 —環境保全の大切さを伝える—
-----	-----------------	-------------------------------	-------------	---

環境出前講座

	日程	場所	参加数	内容
第1回	7月26日	中央公民館	17名	気象予報士と地球温暖化について考えよう
第2回	8月23日	中央公民館	15名	環境等ミニ講座、風力発電工作

その他、『暮らしのSDGs学習会』を10回(187回～196回)開催しました。

<令和6年度活動計画>

市民環境講座 (担当：事務局の市民環境講座担当：笠原及び各責任者)

流山市からの受託事業として開催します。

	日程	場所/担当	目標数	内容
第1回	2024/6/8 (土)	生涯学習センター (多目的ホール) 責任者 増永、大塚	20組	LEDランタン工作
第2回	2024/8/18 (日)	生涯学習センター (多目的ホール) 責任者 笠原、横田	20組	ソーラーカー組立工作
第3回	2024/11/17 (日)	中央公民館 (第2会議室) 責任者 横田、難波	30人	未来ワークショップ 千葉大学倉阪先生 (未調整)
第4回	2025/3/1 (土)	文化会館 (ホール) 責任者 筒井、増永	400人	らんま先生 「エコパフォーマンスショー」

環境出前講座 (担当：事務局の出前講座担当)

要望があれば、市内小学校などに環境出前講座を開催します。

内容は事務局の環境出前講座担当が調整します。

イベント事業 (担当：事務局の担当：吉永)

日程	イベント	場所	主催者	内容
2024年 6月2日(日)	セントラルパーク フェスタ	生涯学習センター	生涯学習センター	手回し発電の電車 家庭の省エネ診断等

令和6年度第1回市民環境講座

LED ランタン工作

生涯学習センター 多目的ホール

令和6年6月8日(土曜日)、生涯学習センターで令和6年度第1回市民環境講座「LED ランタン工作」を行いました。市民環境講座は流山市から「温暖化防止ながれやま」が受託している事業です。今回は、14組17名の小学生とその保護者が参加しました。



工作では難しい作業もありましたが、保護者の方や指導員の補助を受けながら、参加した小学生全員がオリジナルのLEDランタンを完成させました。最後に、会場を暗くしてランタンを点灯した際には歓声が起こりさまざまな色に光るランタンを皆さんで眺め・楽しみました。

工作を終えた後は、「蓄電池のお話」としてスライドショーを用いたミニ講座が行われました。また、会場には「人類とエネルギーの歴史」についての展示コーナーも設けられました。



参加した小学生からは、「ランタンが光って嬉しかった」「手作りのランタンでありながらも思っていた以上の出来栄に感動しました」などの感想がありました。また、保護者の方からは「太陽光を使った工作が簡単にできて驚きました」「工作を通して子どもと環境問題について考える良い機会となりました」などの感想が寄せられました。

暮らしのSDGs 学習会

第197回 暮らしのSDGs 学習会

都心から一番近い森の町

まちなか森づくり

講師 横田 輝雄 (OBN 会員)

令和6年4月12日に生涯学習センターにおいて、第197回暮らしのSDGs 学習会を開催しました。

学習会では、都心から一番近い森の町として人口増加が著しい流山市の『生物多様性戦略』の

説明がありました。具体的には次の通りです。

* 里山の自然を永続的に保全し、健全な生態系として効果的に保護することが必要。

* 特に『おおたか』の繁殖が市野谷の森で確認されて、生息を発表し保護する対策を取る必要がありました。

* 流山市では、2010年に『ながれやま生物多様性戦略：50年間戦略』を定め継続的に取り組んでおります。

* 私たちのくらしは生物多様性に支えられています

生物多様性の重要性

生物多様性とは
バラエティーに富んださまざまな生き物が豊かに存在していること

生物多様性は、私たちが自然から受け取る恵み(生態系サービス)を支える役割を果たしている

供給サービス	調整サービス	文化的サービス	基盤サービス

現在、生物多様性は急激な速度で失われている

生態系サービスの恩恵をこれからも受けるためには、過剰な消費を控えたり、生物多様性に配慮した食事をしたりするなど、私たちひとりひとりの行動が重要となる

私たちが日々当たり前のように飲んでいる水、美味しい食べ物、医薬品、服などは様々な生物多様性の恵みにより作られています。

また、豊かな生態系を育む里山の木々は、洪水などの自然災害から私たちを守り酸素を供給し、健全な水循環を維持するなど様々な生物が生存していく上で欠かせない存在です。

流山市には前述のように『市野谷の森』などの守り育てたい自然が多くあります。大切にしたいものです。

* SDGsの目標14と目標15には、海の豊かさや陸の豊かさを守ろうという項目があります

SDGsの17の目標の中には、生物多様性の重要性に鑑み、海の豊かさや陸の豊かさを守ろうという項目があり、海洋ゴミの増加、汚染の拡大、海洋資源の減少と陸においては森林伐採の進行(砂漠化)、地域生態系の破壊、それによる生物の大量絶滅などが懸念されています。

私たちは、ゴミの減量や植物を増やす等の努力が必要です。

SDGs 目標14「海の豊かさを守ろう」とは

SDGs 目標14「海の豊かさを守ろう」とは、海や海洋資源を持続的に利用するために掲げられた目標

海洋環境の現状

海洋ゴミが増えている	プラスチックゴミだけでも合計1億5000万t以上
海洋汚染が拡大している	生活排水、工場排水、船やタンカーから漏れた油などが要因
海洋資源が減少している	1970年から2012年にかけて海洋生物の個体数が約50%減

目標達成のために私たちにできること

- 01 普段の生活で出ているごみの量を減らす
- 02 街中にゴミが落ちていたら回収してごみ箱に捨てる
- 03 回収した海洋ゴミを再利用する(例: 海ごみアート)

SDGs 目標15「陸の豊かさを守ろう」とは

SDGs15「陸の豊かさを守ろう」とは、海洋を除く自然環境問題を解決するために掲げられた目標

陸上環境の現状

陸域生態系の破壊	森林伐採の進行	砂漠化の進行	生物の大量絶滅
陸域生態系の約75%にも及ぶ領域が人の手で改変	年間平均470万haペースで世界の森林面積が減少	年間1200万haのペースで進行	100万種に絶滅の危険性

目標達成のために私たちにできること

- 01 野菜や大豆などの植物ベースの食事を増やす
- 02 庭やベランダで植栽する
- 03 NPOや市民団体を支援する

第198回暮らしのSDGs学習会

大雨災害

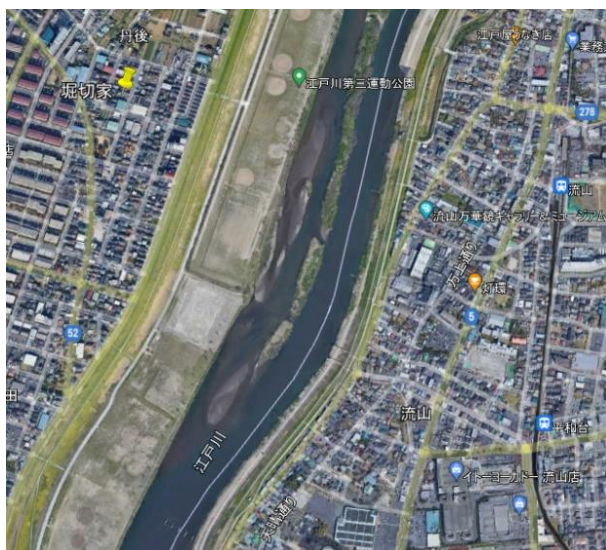
あなたの街のここが危ない

講師 吉永泰祐（気象予報士）

令和6年5月10日、生涯学習センターにおいて吉永事務局長を講師として、「大雨災害。あなたの街のここが危ない」を開催しました。講師は、現職時代は気象庁本庁予報課予報官で利根川、江戸川の洪水予報を担当していたことがあります。定年退職後は気象予報士として民間気象会社で波浪予報業務に従事していました。

講演内容は以下のようなものでした。

大雨が降ると河川洪水、低地の浸水、がけ崩れが起こることがあります。この3つの事例について、流山市のどこでこのような災害が起こりやすいのか市などが公表しているハザードマップで説明しました。



この写真は流山付近の江戸川の堤防ですが大雨が降って堤防が決壊した場合の被害想定が洪水ハザードマップで公表されています。

市内を流れる中小河川の中で下の写真は加岸地区の今上落しの様子ですが、このような堤防の整備されていない河川の洪水ハザードマップも公表されています。



低地の浸水ではおたかの森駅周辺のアンダーパスの危険性が浸水ハザードマップで公表されています。



流山消防署や流山警察署付近も大雨時には浸水の起こりやすい場所です。

土砂災害では坂川右岸付近に大雨時に崩れやすい崖があります。

台風や大雨に備えて各家庭で防災備蓄を進め、発災時には隣近所で声を掛け合うなどして、特に高齢者だけで住んでいる家庭をみんなで守りましょう。

第199回 暮らしのSDGs学習会

私たちの身近な川との関わり

令和6年6月14日、生涯学習センターにおいて石垣幸子会員を講師として、「私たちの身近な川との関わり」を開催しました。

内容は以下の通りとなります。

人類は太古の昔から水辺を離れての生活はできなかった。人々は川を統御しながら利用してきた。川は飲料水や生活用水として欠かすことのできないものであり、又農業用水、工業用水、そして発電用水にも利用している。近世には水運が発達した。



利根川の東遷

利根川はもとは3本が別々の川であった。徳川家康の命により、それまで江戸湾へ流れ込んでいた利根川を、銚子から太平洋へと流路を変えた。



利根川、関宿あたり（上方が下流）

戦後の産業の発達や生活様式の変化などにより。水の需要が高まってきた。各県や市町村では水道水の水源を川に求めた。

首都圏への人口集中で水不足が深刻となる中、東京都は利根川上流にダムを作り、武蔵水路を掘削、秋ヶ瀬取水堰から金町・朝霞浄水場から各家庭へ、今、都民の水の70%は利根川水系からという。流山市の水道事業は昭和38年から始まり、北千葉広域事業団が江戸川の水を取水して、各家庭や工場へと供給している。

世界は地球温暖化による異常気象が深刻となっている。川は異常気象の影響を直接受ける。現在は治水対策として、堤防やダム建設、遊水池などの対策が進んでいる。

ダムの役割

- ① 水を蓄える
- ② 洪水を防ぐ
- ③ 電気を作る。近年は再生エネルギーとして、発電に使った水をもう一度汲み上げて使うという、揚水式水力発電所の取組が始まっている。

遊水池

大雨の時、川が一定の水量を超えると越流堤から遊水池に水が流れ込んで溜められる。普段は田んぼや運動場などに使用されている。

日本の川は清流で生物多様性を誇っていた。高度経済成長期以降、都市近郊の川はどぶ川となってしまったところが多い。汚れの原因は産業排水のほかに、台所、ふろ、トイレなど私たちが日常生活から出される生活排水がある。政府は平成9年、河川法を改正し、今までの利水、治水に、環境を加えて、「豊かで美しい河川環境の整備と保全」を位置付けた。

セントラルパークフェスタに参加しました

令和6年6月2日（日）生涯学習センター（流山エルズ）で「セントラルパークフェスタ&感謝祭2024」が開催され、市民活動団体による展示、ラグビー体験、キッチンカーによる出店などで、雨天にもかかわらず、大変な賑わいを見せました。

温暖化防止ながれやまは「SDGsを知り、地球規模で直面する社会・経済・環境の問題を解決するため、私たちはどのように取り組むべきか」をコンセプトに、参加しました。



展示では、「手回し発電機で電車を動かそう」のコーナーで子供たちが必死に発電機を回して楽しそうに電車を動かしていました。



ポスター展示のコーナーでは「人類とエネルギーの歴史」と「SDGs」のパネルを展示し、ミニ講座・映像のコーナーでは、SDGsの説明を上映し、親子が興味深そうに勉強していました。



また、「家庭の省エネ診断」「断熱ガラスの効果」のコーナーでは高齢者宅の省エネ家電や断熱リフォームの相談に対応しました。

おみやげには流山ゴーヤクラブ様から提供された「ゴーヤの種」を差し上げ、家に日陰を作って夏を快適に過ごそうと呼びかけました。

地元の齋藤健経済産業大臣も視察に訪れ、楽しそうに手回し発電で電車を動かしておられました。

展示にご協力いただいた野田エコライフの会様、アースコン松戸様に感謝致します。

